



三芦城跡と石都々古和氣神社
石川氏の居城跡。現在、本丸跡には石都々古和氣神社が奉られ、室町時代に石川氏によって奉納された銅製の鐃口が今でも保管されています。

石都々古和氣神社鐃口
(県指定重要文化財)



長 泉 寺
永享8年(1436年)に開山された曹洞宗の寺。石川氏17代義光から23代晴光まで7代の三芦城主の墓があります。

石川公墓地



葉 王 寺
真言宗の古刹。鎌倉時代から南北朝時代にかけての版木81枚が残されています。

葉王寺の版木(県指定重要文化財)



乗 蓮 寺
承和3年(836年)に創建され、後に石川氏の祈願寺となった真言宗の寺。境内には元禄10年(1697年)に造られた銅鐘があります。

乗蓮寺の銅鐘(町指定文化財)

まちの誇り
まちの宝

歴史

伝えていききたいものがあります
残していききたいものがあります

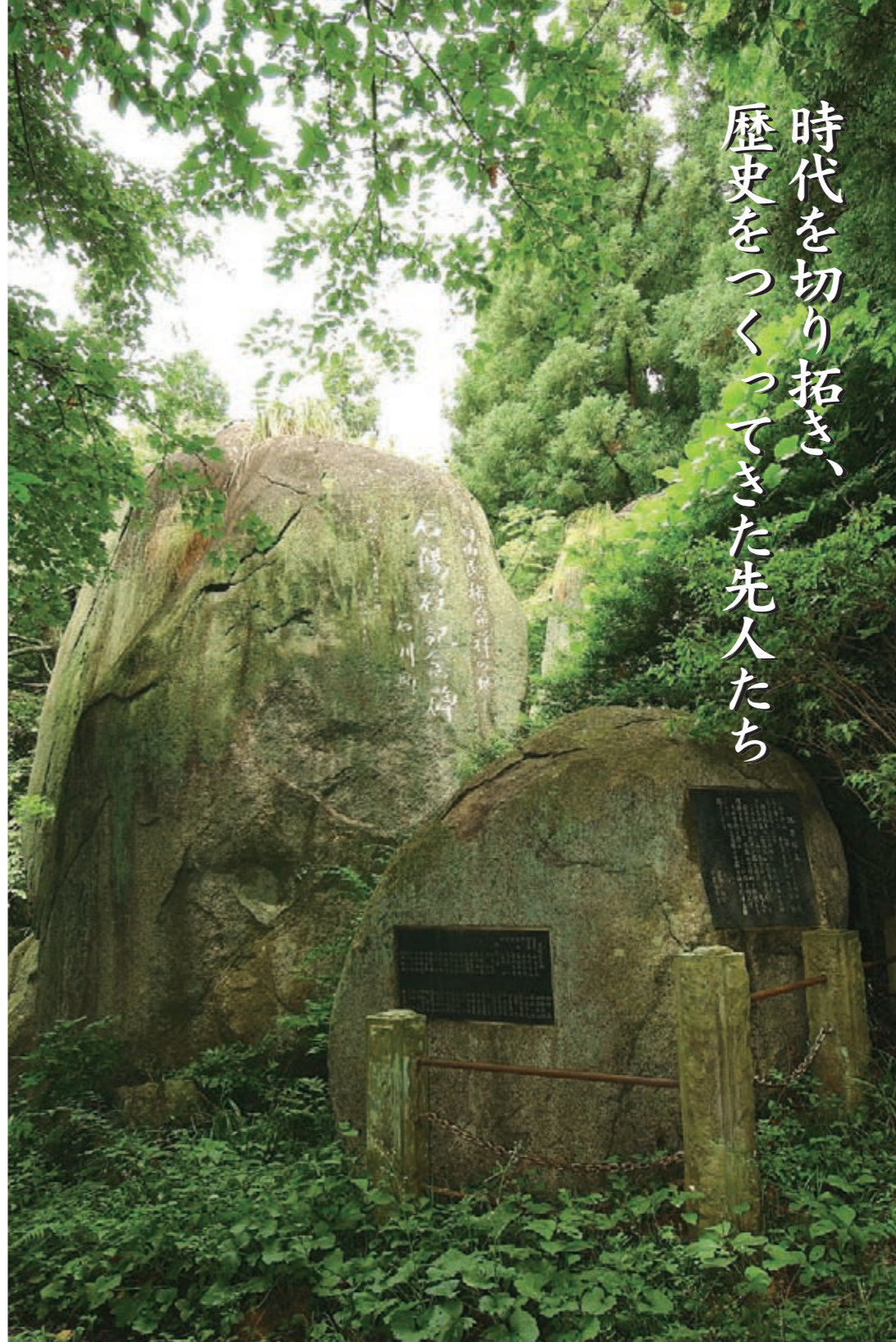
時代を切り拓き、
歴史をつくってってきた先人たち

本町に点在する史跡や文化財の数々は、ここで人々が生活し、時代を築いてきた歴史の長さを物語っています。これからもまちの歴史を語り伝えながら、自治意識の高いまちを目指します。

【自由民権運動発祥の地】

明治8年(1875年)、この地域の指導者だった河野広中や吉田光一らによって結成された「有志会議」(後の石陽社)は、東日本最初の政治結社として東北の自由民権運動を主導していきます。本町から始まったこの運動の波は徐々に各地へと広がり、それに危機感を持った政府は厳しい弾圧を彼らに加えますが断固として屈せず、「民主主義」という新たな時代を自らの手で切り拓いてきました。

この偉業をたたえ、運動発祥の地としての誇りを後世に伝えようと建てられたのが「石陽社記念碑」です。この記念碑は、石尊山公園の高台から今も静かにまちを見守っています。



【自由民権運動の中心人物】

河野 広中



嘉永2年(1849年)、三春町に生まれた河野広中は、ジョン・スチュアート・

ミルの『自由乃理』を読んでから自由民権運動に傾倒。明治7年(1874年)に石川の区長になり、そこで「石陽社」を結成。東北地方の自由民権運動を先導していきます。その後、中央政界にも進出。明治15年(1882年)の福島事件では内乱陰謀容疑で検挙されますが、その後の恩赦で出獄。以後、中央政界で郷土のために活躍します。

【石川町の初代町長】

吉田 光一



弘化2年(1845年)、石川の神官の家生まれた吉田光一は、河野らと「石

陽社」を結成。実質的な指導者として運動を主導していきます。明治14年(1881年)に県会議員となり、その年の9月に発刊された「福島自由新聞」の発起人になります。その後、初代石川町長に就任。明治25年(1892年)には、森嘉種と共に石川義塾(現・学法石川高校)を設立。明治27年(1894年)に町制が布かれるとその初代町長になります。

【石陽社の若手活動家】

鈴木 重謙



安政5年(1858年)、石川の大庄屋鈴木家の養子、鈴木重謙は、石陽社

の若手活動家として精力的に演説会を開き、政治の在り方を大衆に訴え続けます。しかし、徐々に政府の弾圧が始まり、福島事件では重謙も石川警察署に拘引されてしまいます。石川地方の民権運動で特筆すべきことは、10代から20代の青年弁士が活躍したこと。その中心的人物だった重謙は、のちに県会議員を経て石川町長になります。



「ビジュアル石川町の歴史」は、まちの歴史を分かりやすく紹介した本です。